

平成30年度

第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時 : 平成30年6月14日(木)  
13:00~15:00

場 所 : 関東森林管理局  
東京事務所 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 木材の需給動向について

① 木材の需給、価格等の動向

② 関東局における国有林材の供給状況

(2) 国有林材供給調整の必要性について(審議)

3. 閉 会

平成30年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	栗原 直人
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	楡井 真一
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

1. 開催日時・場所

平成30年6月14日(木) 13:00~15:00

関東森林管理局 東京事務所会議室

2. 検討結果

需給動向や各委員からの状況報告等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する必要はない。

3. 概要(状況報告等)

(1) 需給動向について

○静岡県では、スギ、ヒノキとも中目良材が不足している。

○栃木県では、5月までの出荷量が平年並で、入荷量も安定している。今後の入荷量についても、間伐材を中心に、ほぼ平年並の入荷が予想される。

○茨城県では、スギ柱材の価格が一時期下落していたが、現在は持ち直している。ヒノキは土台材の引き合いが強く高値を維持している。

○福島県では、原木の大径木化に伴う小中径木の減少と間伐材のバイオマス燃料向け需要の増加等により、スギ柱取り丸太、母屋取り丸太等の小・中径木の価格が上昇している。

(2) 主な意見

○栃木県では、間伐から皆伐へシフトし始めたことから、スギ・ヒノキの良材も出荷されてきているが、年間を通して安定的に材を出荷できる仕組みの構築等、検討すべき点はある。

○住宅建築着工数が高いレベルを維持し、住宅メーカー・プレカット工場の動きも良好に推移しているが、来年度の消費税増税等による急激な需要減少が懸念される。

○福島県では、バイオマス関連の新規設備計画があり需要増に期待がかかるが、生産量の拡大には長期的な展望を要する。